

# 花を育てる

老 舎

(訳 橋本毅)

私は花が好きです。だから花を育てることも好きです。私はしかしまだ花を育てる専門家になっていません。なぜなら研究や実験をする時間がなからです。私はただ花を育てることが生活の中の楽しみのひとつで、花の咲き具合が大きくても小さくても、良くても悪くても、ただ花が咲いてくれさえすればそれだけで楽しいのです。

私の家の庭は夏になると花々でいっぱいになり、子猫たちは家で遊ぶしなく、地面には彼らの運動場はなくなります。

花は多いのですが、珍しい花はありません。珍しく貴重な花は育てにくく、ひとつの良い花が病気になって枯れていく様を見ていることは、悲しく辛いことです。私はその度に涙を流したくないのです。北京の気候は花を育てるには良いとは言えません。冬は寒く、春は風の日が多く、夏は乾燥し、そうでなければ盥をひっくり返したような大雨となります。秋は最も良いのですが、突然霜の害が起こります。この様な気候の中で、南方の珍しい花を育てようと想うと、私にはまだそのような高い技量は有りません。したがって私はただ育てやすく自分で努力する花を育てます。

しかし、たとえ花々が自分で努力したとしても、私がもしかまわずに放っておいて自然に生え、自然に消滅するのにまかせていたら、彼らの多くはやはり枯れてしまうでしょう。私は毎日彼らに対して、まるで友達のように心のこもった親しみのある世話をしなければなりません。

そうこうするうちに私は幾つかのこつを掴みました。日陰を好むものは陽の当たる所には置いてはならず、乾いた所を好むものには多くの水をあげてはいけない。これはひとつの楽しみであり、こつがわかって花を育て

ると数年元気に生き続け、花が咲くことはなんと楽しいことでしょう！  
むやみに自慢するわけではありませんが、これはまさに知識なのです！  
多くの知識を得ることは決して悪いことではありません。

私は足が不自由なので、歩くのも良くないし長く座っているのもよくありません。私は花々が私の世話を受けて感謝しているかどうかはわかりません。しかし私は彼らに感謝しなければなりません。私は仕事をしている時、いつも数十字書くと庭へ見に行き、この木に水をやり、あの植木鉢を移し、そのあと再び部屋に戻りまた筆を執り少し書いてそしてまた出て行く、その繰り返しで頭脳労働と肉体労働を結びつけて、心にも身体にも良く菓を飲むことより優れています。もし運悪く強風や大雨、突然の天候の変化が起こったら家族のみんなを駆り出さなければならず、大急ぎで花を救うのにてんてこ舞いとなります。数百の植木鉢をみんな急いで部屋の中へ運ばなければならず、腰はだるく、足は痛くなり、汗びっしょりとなります。翌日、天気が良くなると、また花をすべて外に出さなければならず、もう一度腰はだるく、足は痛くなり、汗びっしょりになります。しかしこれはなんと有意義なことでしょう！ 働かないと木や花さえも元気に育ちません。これは真理ではないのでしょうか？

牛乳配達の人が門を入るや否や「いい香りだ！」と誉めてくれます。これを聞くと、私たち家族みんなは得意になります。

月下美人が咲く頃になると幾人かの友人を鑑賞に誘い、更に「秉燭夜游」<sup>1</sup>のような気分を味わいます。

月下美人はいつも夜に花が開きます。花の根が分かれるので、一株を数株に分けて友人達に幾つか贈ります。友人が私の仕事の収穫を持ち帰るのを見ていると、心の中はひとりでに殊のほか嬉しくなります。

もちろん悲しいこともあります。今年の夏もこのようなことが一度ありました。三百株の菊の苗がまだ露地にあるのに（植木鉢に移し替えていない時）、暴雨となりました。隣家の壁が倒れてきて、菊苗は押し潰されて

しまい約三十数種、百数株の犠牲者を出してしまいました！ 家族のみんなには数日笑顔はありませんでした。

喜びあり憂いあり、笑いあり涙あり、花あり実があり、香りあり色あり、働かなくてはいけないことがあり、また見識も広める、これこそが花を育てる楽しみなのです。

- 1 秉燭夜游……古詩「昼短苦夜長，何不秉燭游（日が短くて夜の長いのがつらければ、どうして蠟燭を手に秉（と）って夜に遊び、行楽を楽しまないのか」に由来する成語。現在では「時節に合わせた行楽をする」という意味で用いられている。



（中国語原文）                      养 花                      老 舍

我爱花，所以也爱养花。我可还没成为养花专家，因为没有工夫去作研究与试验。我只把养花当作生活中的一种乐趣，花开得大小好坏都不计较，只要开花，我就高兴。

在我的小院子中，到夏天，满是花草，小猫儿们只好上房去玩耍，地上没有它们的运动场。

花虽多，但无奇花异草。珍贵的花草不易养活，看着一棵好花生病欲死是件难过的事。我不愿时时落泪。北京的气候，对养花来说，不算很好。冬天冷，春天多风，夏天不是干旱就是大雨倾盆，秋天最好，可是忽然会闹霜冻。在这种气候里，想把南方的好花养活，我还没有那么大的本事。因此，我只养些好种易活，自己会奋斗的花草。

不过，尽管花草自己会奋斗，我若置之不理，任其自生自灭，它们多数还是会死了的。我得天天照管它们，像好朋友似的关切它们。

一来二去，我摸着一些门道；有的喜阴，就别放在太阳地里，有的喜干，就别多浇水。这是个乐趣，摸住门道，花草养活了，而且三年五载老活着、开花，多么有意思呀！不是乱吹，这就是知识呀！多

得些知识，一定不是坏事。

我不是有腿病吗，不但不利于行，也不利于久坐。我不知道花草们受我的照顾，感谢我不感谢；我可得感谢它们。在我工作的时候，我总是写了几十个字，就到院中去看看，浇浇这棵，搬搬那盆，然后回到屋中再写一点，然后再出去，如此循环，把脑力劳动与体力劳动结合到一起，有益身心，胜于吃药。要是赶上狂风暴雨或天气突变哪，就得全家动员，抢救花草，十分紧张。

几百盆花，都要很快地抢到屋里去，使人腰酸腿疼，热汗直流。第二天，天气好转，又得把花儿都搬出去，就又一次腰酸腿疼，热汗直流。可是，这多么有意思呀！不劳动，连棵花儿也养不活，这难道不是真理么？

送牛奶的同志，进门就夸“好香”！这使我们全家都感到骄傲。

赶到昙花开放的时候，约几位朋友来看看，更有秉烛夜游的神气——昙花总在夜里放蕊。花儿分根了，一棵分为数棵，就赠给朋友们一些；看着友人拿走自己的劳动果实，心里自然特别喜欢。

当然，也有伤心的时候，今年夏天就有这么一回。三百株菊秧还在地上（没到移入盆中的时候），下了暴雨。邻家的墙倒了下来，菊秧被砸死者约三十多种，一百多棵！全家都几天没有笑容！

有喜有忧，有笑有泪，有花有实，有香有色，既须劳动，又长见识，这就是养花的乐趣。

